

2010年2月8日

2010年3月期 第3四半期決算説明会 Q&A

テレビ東京 広報・IR部

Q 今回 2009 年度の制作費を大幅に減らしたのは、利益を確保する経営の意志なのか。

A 2008 年度に、33 年ぶりの単体営業赤字を出し、2 期連続の営業赤字を何としても避けるという経営の意志はあったが、黒字にするための制作費総額を具体的に指示したわけではない。効率的な使い方を全社に指示し、結果としてこの数値になった。

Q 2010 年度の制作費に対する考え方は。

A 2009 年度の制作費水準で、コンテンツの維持は限界と考えている。オリンピック、ワールドカップの特殊要因を除いて、これ以上上げる考えはない。グループ内で効率よく「真水の制作費」を高める努力をしていく。

Q タイムの 2010 年度の状況について。

A サッカーワールドカップ等の大型の特別需要を除いて、現状維持と考えている。

Q 通販などのダイレクトマーケティングが好調だったとのことだが、通販の放送枠は増やす方針か。

A 「虎ノ門市場」は第3四半期から売上、利益が出てきたが、食料品を取り扱うリスクはあるので、ここだけを伸ばし続ける訳ではない。通販が拡大しているということは、そこに需要があることであることと捉え、ショッピング番組のバランスを考慮しながら、「文化の創造」として伸ばしたい分野である。

Q 2010 年度以降の映画出資の考え方は。

A 「テレビ局が出資する映画」の意味合いをもう一度考え直し、放送での効果的なプロモーション、リスク、収益性に対する考え方を見直す。

Q ライツ事業について、短期的・中長期的にどのように伸ばしていくのか。

A 短期的には、やり方を変えることで収益改善余地はあると考える。中長期的には、「テレビ局の出資するライセンス事業」はどうあるべきかトータルで考える。IT への出遅れ感もあるが、携帯ビジネスをどのように拡大するかなど、真剣に考えていく。人材の配置、育成も重要な課題と考えて戦略を立案していく。

以上